

第13回 高知県史編さん編集委員会 議事概要

日時：令和7年11月26日（水）9：30～12：30

会場：高知県立高知城歴史博物館 ホール

出席委員：藤井委員長、羽賀副委員長、渡部委員、小幡委員、大門委員、鋤柄委員、松田委員、
岡本委員、三浦委員、原委員

（リモート出席）：井上委員、津野委員、岩佐委員、邑田委員

事務局：濱田企画監、土居補佐、目良チーフ、紀ノ國主幹、松本主幹、坂本専門員、小林主査、
大石主事、村越主事

1. 開会

2. 挨拶

藤井委員長より開会挨拶

3. 報告事項

（1）前回までの編集委員会の概要について

資料1について、事務局より説明。

- ・『旧県史目録』については、図書館が作成した紙媒体のものを、事務局にてExcelデータ化し、確認したうえで、近世部会を中心に各専門部会に情報提供を行う。今年度できる限り、『旧県史目録』に記載の情報を元に、『旧県史』に掲載された資料調査、所在調査の実施を検討していく。人員と予算の制限はあるが、2刊目、3刊目を見据えて、近世部会からもこの情報について情報提供の要請もある。どこまでできるか、というところはあるが、市町村役場だけではなく、場合によっては所有者まで手を広げていくことになるかもしれない。
- ・編さん委員会の進め方については、委員の協力のもと、資料を1ペーパーにまとめたことで、委員の方からも好評であった。詳細については（5）その他のところで説明させていただく。
- ・人権的な配慮を必要とする事項については、今回、協議事項として諮りたい案件があるため、その取り扱いについて協議を進めていきたい。

⇒ 質疑応答なし

（藤井委員長）

- ・それぞれの部会でこれまでの『旧県史』における調査の成果、目録等と新本との関わりについては、その折に説明いただければ。

（2）各専門部会の活動状況報告について

【古代・中世部会】資料2-1について井上委員より説明。

- ・第1刊目が令和10年に迫ってきており、いかに効率的に資料編さんを進めていくかという、具体的な作業に力点を移しつつある。そうした関係の打ち合わせや準備を集中的に進めている。
- ・資料にあたり、具体的な作業を詰めていくということが重要になってくるため、掲載する簿冊の現状を認識しつつ、委員の意見を交換している。

- ・9月に事務局と、現状の進捗状況等の打ち合わせを行った。その中で、2刊目以降を見据えて、特に、長宗我部関係史料は古代・中世部会においてかなり注目される1冊になるかと思うため、第1刊の県内所在資料とリンクさせながらどう編さんしていくのか、事前に準備を重ねて進めていかないと、連絡が上手くいかないということが予想されるため、委員会を立ち上げて進めていくこととした。また、合同調査を可能な限り重ねていくということを話した。
- ・『旧県史』に掲載されている近世史料を中心とした金石文や棟札の編さんについても考古部会や文化財部会と分業をして漏れがないようにしないといけないということが議題として挙がっていた。
- ・中世後期を専門とする委員で長宗我部担当委員会を発足し、どう掲載するか、また、県内で対立するものとどういった分量にするのか、長宗我部の受給関係のものをどの範囲まで長宗我部史料として掲載するのか、という現状整理が重要となってくるため、それを踏まえて収集を進めなければならない。こうした準備から、本格的に進んできている。
- ・10月の部会で、具体的な資料編を作っていくのかということについて、詳細に突き詰めていくことや、委員の作業計画を確認した。現在、資料編1に掲載予定の点数は、1,500を超えてくると想定される。全体目録は年内に完成させ、並行して進めている事務局で用意したテキスト類やデータの確認を進めている。1月以降は、各委員に、担当分野の校正作業を本格的に着手していく。無理ない範囲で急ぎながら進めていこうということを共有した。
- ・合同調査は実施していないが、事務局を中心に、史料編纂所でも収集していない資料の聞き取り調査を進めている。
- ・8月に、四国中世史研究会にて県史編さん事業の紹介および、資料の情報提供の協力を要請した。今後、四国中世史研究会と連携しながら、古代・中世史料で漏れがないように進めていきたい。
- ・長宗我部担当委員会では、津野副部長のもと、抽出作業を具体的に進めている。事務局では、関係する資料群から目録を作成していく。また、『旧県史』の文化財関係の目録を作成したため、考古部会や文化財部会で担当していただけたらよいと考えている。史料編纂所では、撮影したデータの目録の整理を基礎台帳とリンクした形で整理を行っていく。その他、テキストの基礎校正や整序作業を行っている。全体としては、第1刊及び長宗我部の作業に注力しながら、編さん環境を整えて進めていくということを1月から本格化していく。
- ・今後は、東京国立博物館に「香宗我部家伝証文」調査協力の要請を行う。また、考古部会、文化財部会との調整を行っていきたい。

(津野委員)

- ・長宗我部関係文書の抽出を行っている。その中で、基本的なことであるが文書名はどういった名称がふさわしいのかということが問題としてあがってきている。できるだけはやく文書名のたたき台というものが作れたらと考えている。もう一つの問題は、近世の写本間での重複である。
- ・史料抽出については、長宗我部関係史料を事務局で行っている。今後は、徳川家康文書などに拡げていく。

→ (藤井委員長)

- ・古文書については、全体像が見えてきたと思う。文書と記録類が掲載するとなると、文書名と対立するが、日誌などの記録類はどのように取り扱うのか。

→ (井上委員)

- ・記録類は、掲載する予定である。県内・県外の記録は「記録編」という形でまとめる。長宗我部史料は、基本編年スタイルで行うため、記録の検出等を「大日本史料」的なものに準拠という形で情報をとっていくと考えているが、細かい書式凡例等は組み込めていない。文書だけではなく、記録、典籍類のどこを1～3刊でばらして掲載していくかということが課題になっている。

→ (藤井委員長)

- ・古代・中世の3刊の中で、どのような構成にするかということで、編さんの作業が変わってくると思うが、いつかの段階でどう割り振るのか報告してほしい。

→ (井上委員)

- ・了解した。事務局とも調整しながら、次回の編さん委員会までに出していけるよう整理を進めていく。

【近世部会】資料2-2について渡部委員より説明。

- ・今年9月に部会を実施。『高知県史 資料編 近世1』の掲載順序、原稿の取りまとめや解説執筆の時期、読点の付け方などの統一するべき事項等の確認を行った。
- ・1刊目には「藩士内篇」全号の翻刻や、領地、法令、制度関係の資料を収載しようとしている。12月に各委員が原稿を提出し、全体の量を確認し、入稿後に解説を執筆するというで話を進めている。
- ・「資料編 近世2」は農村、都市、「資料編 近世3」は文化、教育について掲載予定。第2刊目の掲載資料についても選別をして、院生に翻刻をお願いしている段階である。
- ・今回の調査からは、県内外の大学生、大学院生のほか、県内の学芸員も参加できる体制が整った。「北川家文書」は、近代の資料もあるが、時代を区切らずに見ていこうと考えている。『旧県史 近世史料編』に掲載されていた資料群「北川家文書」を1,331点を調査し、『旧県史』に未掲載の資料がほとんどであるように思う。
- ・各委員の個別調査は、東委員が浦方を中心とした資料調査、望月委員（都市関係担当）は、「竹村家資料」調査を実施。
- ・今後は12月の部会で、第1刊目の原稿の分量の確認や課題を共有し、解決方法について協議を行い、1刊目の詰めの作業を行う。来年3月には引き続き「北川家文書」を対象に部会調査を行う。

→ (藤井委員長)

- ・1刊目が来年度ということで、これから大変だと思うがどうぞよろしくお願ひしたい。

【近代部会】資料2-3について羽賀副委員長より説明。

- ・9月に部会を実施し、スケジュール等の確認を行った。令和9年刊行の「資料編 近代2」の判型や文字数、ポイント数については、近世部会に準じた形を考えている。現時点で、10章の頁割を確定させることは難しいが、おおよその頁割は平均割で並べていくこととした。解説の分量、内容、位置づけなどを今後検討する。撮影については、かなり速度を上げて取り組んでもらっている。
- ・部会と併せて、各委員30分で進捗状況及び成果報告会を実施し、課題を出した。この報告会は部会ごとに関きたいと考えている。クラウド上の編集用シートを用い、作業基準を設け、上位ランク

のものを翻刻に回している。各委員、作業速度にばらつきはあるが、全体としてスピードを挙げていきたい。

- ・9月に合同調査を須崎市役所にて実施。旧役場資料や議会関係資料を調査。議会関係資料については、管理状況が悪いため、今後の管理方法については検討が必要である。須崎村、須崎町、新荘村、多ノ郷村、浦ノ内村等の議会関係資料は必要箇所については撮影が終了した。
- ・2月の合同調査に向け、10月に土佐町、本山町にて予備調査を実施。この2箇所の調査で、全県的な市町村役場、議会資料の調査がほぼできたと考えている。
- ・その他、高知市民図書館や自由民権記念館などで各委員による個別調査を実施。
- ・今後は12月に部会及び現状報告会を行い、2月に土佐町、本山町にて合同調査を実施し、3月に部会及び現状報告会を行う。
- ・須崎市役所にて議会関係の資料調査を行った中で、「洲崎町ニ城山公園ヲ設置スル事」という一件があり、「資料編 近代3」に掲載する重要候補となる。1924年の高知-須崎間の高知線開通を契機に開発計画を行っている時期であり、城山公園を、観光地化、避難地化することとして位置づけをしており、町長はそれを予算化すると回答している。その後のことについては、まだ調べられていないが、大変重要な資料であると考えている。

→ (藤井委員長)

- ・近代は、役場文書などの公の文書の調査を精力的に行い、かなり見えてきたという感じがする。個人所蔵の資料については、そもそもどういった所在なのか。ご報告願いたい。

→ (羽賀副委員長)

- ・個人の家に伝わったもののうち公的な機関が所蔵しているものは、目録が揃っており、調査がしやすい。しかし、県内的に個人が所有している資料は情報が少ない。また、高知県内である団体が資料調査を行った際に簡易目録が作られているが、それに従い、現状を確認していると、2件ほど重要資料がなくなっていることがわかった。個人文書については情報を集めながらやっていきたい。

→ (藤井委員長)

- ・どうぞよろしくおねがいしたい。

【現代部会】 資料2-4について大門委員より説明。

- ・現代は、県全体の資料と地域編という構成になっており、第1刊目は県西部となっており、調査を終え、撮影を進めているところである。
- ・昨年からは県東部の調査を開始しており、台風で延期になっていた調査を今年8月に実施することができた。役場等に行き、行政、総務、議会関係資料を閲覧、確認をしている。行政、教育、漁業、農業等が調査の対象地にあがっている。教育の場合、行政文書に残っているものがあるが、高知においては、安芸市などに教職員組合があるため、そうした組合や個人が持っている場合がある。漁業については、行政、漁協、個人。農業については、農協を中心など、諸団体や個人を軸に東部の調査を進めてきている。この調査の成果を、今後、撮影リストの作成、リストに回していくものの確認を進めている。第2刊目の地域編の調査については、今年ある程度進められたと考えている。
- ・8月に行った部会では、主に資料編第1刊の編集について主に協議を行った。新たに加わった政治・行政担当の委員から仮目次案の提出があり、第1刊の県全体の中心となる資料になるだろうとい

うことで、政治行政を最初に置く仮目次案が了承された。この新たな仮目次案の提案を踏まえ、従来の分量案を改訂する案が作成され、現段階で一応の了解が得られている。資料の選定状況について、各委員から報告を実施した。

- ・ 8月の部会をふまえ、第1刊目の構成のうち、第1部・県域編及び第2部・地域編（県西部）の編別構成はおおよそ確定してきている。資料の重要度をランク付けし、ランキングに基づいて、収録資料を確定させるため、各委員から状況報告がなされている。
- ・ 現代部会としてのクラウド整備が遅れていたが、今年の2月に、博士課程の院生に依頼し、クラウドの整備を行ったことで使いやすくなった。この院生は年2回の合同調査にも参加しており、資料調査の経験を重ねてもらい、ゆくゆくはこういった人材が執筆委員になってもらえればと思っている。
- ・ 対面の部会の際に、調査報告会を実施しており、今年の8月は大門部会長が報告を行った。毎回とは決めていないが今後も随時行い、現代部会の資料調査の内容や資料編の構成の認識の共有を深めていきたい。
- ・ 今後は、12月にオンラインで部会を実施予定。

【考古部会】資料2-5に沿って、鋤柄委員より説明。

- ・ 前回の委員会から11月までは、弥生時代と古墳時代の編集、3～4世紀の検討、基盤情報整備としての歴史的景観復元を基本テーマとして掲げてきた。
- ・ 古墳時代から近世までの遺跡、遺物について各委員が調査を実施。
- ・ 7月21日に、高知考古学研究会にて、考古部会の活動報告を行った。多くの考古分野の関係者の方々に、今、高知県史の考古部会はどういったことをしているのかという認知を高める必要があると考え、情報共有の場を作らせてもらった。毎年行っていこうと考えている。これを進めていくことで、多くの仲間を作り、県史がより多くの県民の方に知ってもらいながら、よりよいものができるようになると考えている。
- ・ 資料編1について、旧石器時代、縄文時代は、編集を進めている。弥生時代については、高知県にとって必要な問題提起は何なのか、という点を整理し、必要な調査を行う計画を作成してもらっている。古墳時代については、編集の中で必要なデータの整理を始めており、必要な石室の測量についても残りがどのくらいかという見通しを作ってもらっている。
- ・ 資料編2の古代については、瓦の詳細調査を進めている。古代寺院関係については、一定目途がついており、次に古代の集落や灌漑遺跡などに調査を広げていくと報告を受けている。中世については、県史の考古部会のページで公開している。近世については、春野の深瀬家の墓地の調査について報告を受けている。墓地の調査と並行しながら、高知城下町の基盤調査を始めた。
- ・ 資料編3刊分の編集計画を作成し、取り組んでいるところである。
- ・ 資料編1のページ割やそれぞれの段組みの構成案を作成し、12月から1月のうちに絵コンテを作成しようと考えている。
- ・ 中世以前は物部川が現在と違うところを流れていたということが、概ね確定でよいと考えており、モニュメントの分布や有機的な関係していたのか、多くの情報を1枚にまとめている。あくまで創造であるが、守護所跡や田村城の景観についても考えているため、時期を見て、古代・中世部会の

委員と協議ができたかと考えている。

- ・戦争遺跡の基盤情報策定については、歴史文化財課が所有している基本データに基づき、その他進めていることは、戦争遺跡を説明するために必要な項目は何か、詳しい方に依頼し考えていただいている。また、来年度は石造品に入っていきたいと考えている。
- ・今年度の1番大きなテーマ「刻書土器」の意義については検討が必要である。具体的な評価方法については、年代や作成場所など自然科学的な分析を来年度行いたいと考えている。
- ・弥生時代の終わりから古墳時代の初めにかけての解釈が難しい時期について、たたき台に基づいて、定量的な検討を行うことで、高知から全国的に問題提起をかけていこうと考えている。
- ・遺跡をみる、当時を語るためには、当時の景観を知ることが第一である。そのため、資料編1では旧石器から古墳時代、資料編2では古代中世の地理環境を一定程度執筆しないとイケないと考えており、準備を進めている。
- ・本編に向けて、遺跡ベースで作成する資料編の中では紹介できないほど大きな問題を投げかけている「刻書土器」のようなものについては、特別項目を設けるべきであり、その他、委員の調査から挙げられた重要資料としての調査の検討に入り、本編に活かされる新規性となる。
- ・これまで各部会で調査を行ってきたが、今後は、具体的に連携して全体史としての姿を語っていく段階に入ってきたのではないかと考えている。事務局は、そういったことができる仕組みを検討いただきたい。

→ (藤井委員長)

- ・通史編のところまで見通し、手順、進め方を丁寧に説明いただいた。最後に発言のあった事項は、県史発足時からの課題であるが、各部会との協働をどのようにして行うかということを実体的に考えていくという指摘があった。各部会、様々な形でかかわってもらえるとありがたい。

【民俗部会】資料2-6について常光委員より説明。

- ・8月の部会の議題の中心は、資料編1の刊行に向けた調査、執筆状況の確認であった。そして、本編1で民俗地図を作成するためのアンケート調査については、おおよそ項目が固まってきたが、効率よく有効に進めていく方法を検討している。資料編2「モノと文化(仮)」は12年後の刊行となるが、鳥取県史民具編の状況を見ると、10年がかりで調査に取り組んでおり、2、3年ではまとまりきらない。民具編についても具体的な構成案や調査を進めていかなければならないと検討している。
- ・資料編1の構成については、「民話」「民謡」「地名」の三部構成である。その中で「民話」については、5章設ける計画であるが、取り上げる民話の選定を担当者が行っている。特に、民話の録音テープについては、文学館から借用し、デジタル化が完了した。現在、県史として使えるか確認を進めている。
- ・「民謡」については、現在、伝承が衰退しており、思うように民謡を聞くということが難しい。ただし、労働歌、作業歌については、酒造りや紙漉きなど記憶されている方がいるため、調査を進めている。
- ・「地名」については、どういった地名、コラムを設けるかということを検討している。
- ・資料編1の次に刊行される本編1は、「山村」「平地農村」「町と都市」「海村」の4章構成となる。

おり、アンケート調査を中心に、効率よく進めていきたい。本編1は4つの地域の特徴を前面に出し、本編2は高知県の民俗を満遍なく記載するという方向で考えている。

- ・10月に幡多地域で合同調査を実施した。昨年は東洋町で行ったが、当然のことながら、地域性が異なっている。災害時に、高知市を中心に「カーカー」という大きな声を発すると報告したが、東洋町では「よなおし」と発する。この「よなおし」については、徳島県も同様であり、おそらく上方の傾向を受けている伝承であると考えられる。幡多での合同調査では、1例だけであるが地震の時に「コッコッコッコ 雉呼んでこい」と発するというのを聞いた。これは、従来の資料では幡多地域一帯に色濃く伝承されており、この伝承が伊予まで続いている。合同調査で歩いていると地域性が見えてくるといふ点が興味深い。
- ・今後は、おそらく年明けになるが、部会を行う予定である。

→(大門委員)

- ・「よなおし」について詳しく教えてもらいたい。

→(常光委員)

- ・江戸前期、『かなめいし』という文献に「よなおし」という言葉が出てきている。この言葉が確認されるもっとも古い言葉ではないかと言われている。近世後期になると「よなおし」という言葉が出てきており、急なご質問で確認はできていないが、災害は多大な被害をもたらす半面、一方では材木の需要など様々な人々の活気を呼ぶというような意味が、「よなおし」には含まれているのではないかと思う。災害のあとの鯰絵にもさかんに登場してくるようだが、災害の持っている負の側面ではなく、復興にかかわる大きな力が秘められているのではないかと個人的には思っている。

【文化財部会】資料2-7に沿って、岡本委員より説明。

三浦委員担当部分(建造物等)については、三浦委員から報告。

- ・今年度から発足し時間もたっていないが、刊行まで時間がないためかなり焦って作業をしている。
- ・文化財部会は3回行われ、巻の構成や各分野の委員をどうするかというところを調整している。協議の中で、指定物件の滅失、毀損、盗難、解除についても、件数の中に今のうちに記録しておくことよいかということでも話し合いを進めている。
- ・武市半平太旧宅及び墓については、国の史跡で高知市が管理しており、来年あるいは再来年で調査をし、今後に向けて動くことになっている。特に建造物ということもあるため、平面図及び室内の写真を後世に残る形で、県史として調査をさせていただく。(三浦委員より報告)
- ・龍河洞については、かつて「龍河洞博物館報」が出ており、龍河洞についてまとめられている。それ以前の歴史については、歴史民俗資料館の寺石文書を見なければわからないため、調査が必要であると考えている。
- ・佐喜浜の経塚については、もともとは経塚ではなく、光明真言碑であり、応長元年の紀年銘がある。周辺が墓地化しており、以前と状況がかなり変わっていて驚いた。また、昭和4年の石柱がそのまま建っており、瓦片が廃棄されており、史跡の管理としてはどうだろうと思った。佐喜浜の経塚については、古文書が残っており、その中には、実測図、銘文等が記載されているが、文献がどこにあるかわからない状況となっているため、資料調査をしなければならない。
- ・竹林寺の彫刻については、虫害の影響を受けている。三島神社の鰐口は、盗難のことを考え、博物

館に所蔵されていることを確認した。この鰐口については、県内最古といわれているが、さらに古い鰐口が室戸の佐喜浜にあると情報を得ているが、まだ調査にはいっていない。中土佐町大野見熊野神社の懸仏は、虫や動物の被害があり、保存処理に出している。裏面の銘文が消されており、三名のうち二名の名が消されており、その理由はわからない。また、本来はお寺にあるものが神社で管理をされている。神社を管理していくのに氏子が10件しかないため、管理ができないと言われることがあり、調査をしていると、文化財をどうしていくのか、というようなことを考え、対応していかなければならないと思った。

- ・今年県指定になった、岩井口・塚谷の不動明王四遍念仏の宗教的背景の調査を行った。現在、高知県にはない時宗の寺院が佐川町にいくつかあったのではないかと、ということが、棟札や様々な資料からわかってきた。中世の時宗寺院が、なぜ近世のうちに宗派を替えられたかということも調査でわかってきている。
- ・今後は、12月に部会及び遍路道の調査を行う予定である。個別調査については、天然記念物の地質鉱物、植物を、民俗文化財については、市町村の保護保全活動について記事検索を行う。
- ・県指定史跡の中岡慎太郎宅跡や吉村寅太郎邸宅の中に、生家が復元されている。この生家そのものは指定文化財ではないが、史跡の中にあるため、図面や写真を撮り、資料編に盛り込みたい、調査を行いたいと考えている。(三浦委員より報告)
- ・事務局では、民俗芸能がいつどこで祭りをやっているかということ調べてもらっている。2年に1回のところもあり、来年行かないと間に合わないところもあるため、精力的に行ってもらっている。12月の部会では、その報告を受けて、現時点での個別調査でどの程度の分量になるか確認していく。(三浦委員より報告)
- ・お堂じまいをしたく、お堂にある仏像や神像を行政に言っても取り合ってもらえないため、廃棄するしかないと考え込んでしまっている方もいる。神社では、宮司さんが自らお金を出して維持しているということも聞いたことがある。そういった問題と直面している。
- ・室戸で石造仏の調査をしていると、佐喜浜の石造仏の石材が、花崗岩と持ち込まれた砂岩、こちらでつくられた砂岩製の石造仏にわかれるのではないかと、ということで、室戸近辺の流通関係がわかってきている。
- ・高野山金剛福寺の報告が出ており、山内家の墓所について紹介されている。山内家墓所についても調査をしないといけないと思っている。
- ・兼山関係の位牌が出てきたということで、これから本格的に調査に入りたいと考えている。

【自然部会】資料2-8について原委員より説明。

- ・令和8年の発足に向け、邑田副部会長、事務局と、3回準備会を行った。
- ・自然部会の本編のコンセプトは、以下の3つの視点で整理をしていくことになった。
 1. 高知の自然環境と多様な生物の特徴と特質について、これまでの自然史科学の成果をふまえて叙述する
 2. 高知の自然災害について、通史的に叙述するとともに、自然災害と関連する都市計画や開発、災害復旧・復興の歴史を取り上げる
 3. 高知の自然について県民の理解と愛着を深めるため、写真や図表を多く盛り込み、ビジュアル

を重視した紙面構成とする

- ・具体的な刊構成について、自然編は本編1刊のみとなっており、限られた紙面構成の中で工夫する必要がある。議論した結果、2編構成とした。
- ・第1編第1章「高知の自然と人（仮）」については、コンセプト1で掲げた自然史にかかわるところをまとめ、高知県内には著名人がたくさんいることから、コラムとして、ジオパークや牧野富太郎、寺田寅彦などを取り上げ、県民の理解と愛着を深めるという部分を取り入れる。
- ・第2編第1章「高知の自然災害とまちの変遷（仮）」では、自然部会だけでは所掌できない部分があるため、他部会との協力を得ながら取りまとめていく。他部会との協力、共同作業が出てくると想像している。第2章「災害からの復旧・復興」では、「都市計画」はもともと災害史との連動があり、「まちの変遷」については、高知県土木部の協力を得ながら進めていこうと検討している。
- ・編集方針は、第1編、第2編それぞれ2つにわけて作業を進めていく。第1編では、生物、地質等の専門の方に執筆いただく。第2編では、発掘された資料、文献等を記述するだけに留まらず、災害ごとに開発や復興を記述する。具体的には、県民の関心の高いところを取り上げて整理をしていくという方針である。
- ・令和8年に発足し、令和15年に刊行予定であるため、長いスケジュールになっているが、令和8年から13年にかけて、データの整理、執筆者の選定、執筆を開始し、令和14年から令和15年に総論の執筆及び全体の編集調整を行う。その過程で、関心の高い分野があればその都度情報発信をしていく。

→（藤井委員長）

- ・発足にあたり、前もって準備をいただき感謝申し上げる。
- ・自然本編の第1編は他の部会と関係することはないと思うが、第2編は近世、近代現代は特に重なることは多いと思う。重なっても構わないということも一方ではあるが、どのように調整するのか、少し具体的にそれぞれの部会で検討していただく方がよいと思う。

→（原委員）

- ・準備会でも同様の議論になった。自然部会では、事実を網羅的に述べていくイメージをしているが、連携は必要になってくる。情報収集を行い、事務局を介して調整していく流れを想定している。引き続き、各部会からのお力添えをよろしくお願いいたします。

（3）高知県史資料編の仕様について

資料3について、事務局より説明。

- ・これまでの編集委員会で決まったことを「『高知県史』資料編の仕様について」にまとめて掲載している。内容構成について、背表紙について、副題をどうするかということは議論になっているが、表題としては「高知県史 資料編 近世1」とすることに決定した
- ・序文を知事に、初刊に限り藤井監修者に「刊行にあたって」の部分を執筆いただき、あとがきは各部長にお願ひしたいと考えている。
- ・今後、この内容を「資料編作成要領」として、決まった形で、各専門部会にお回ししたい。
- ・契約は来年度になるが、仕様が確定した。原稿は一括での入稿を想定。状況によっては部分的に入稿も検討していきたいが、できる限り、一括で入稿としていきたいと考えている。入稿の際の割付

等については、部会ごとになってくると思うが、単年度ごとに検討が必要であると考えている。校正の回数は、入稿の時期にも変わってくると思うが、どのような流れで行うかということは、事務局と部会とで相談させていただきたい。

- ・他県史の状況を取材させてもらい、現在のところ、350部印刷、無償頒布分以外を販売と考えている。

(大門委員)

- ・「刊行にあたって」は近世1のみに掲載となっているが、現代編には藤井監修者の言葉がないということか。

→ (藤井委員長)

- ・意見は出ると思っていたが、考えてみると、各部会の1刊目に書くというのは書きようがあるが、全ての刊に書くというのはしない方がいいのではないか。各巻にあとがきを書くため、刊行にあたって各巻の内容に踏み込むと、重なる部分が多いと思う。「刊行にあたって」では、高知県史全体の基本方針のようなものを記述し、内容に踏みこまないでおこうということでこういった書き方になっている。

→ (事務局)

- ・藤井監修者から近世1については、刊行にあたって執筆したものを掲載させていただきたいということであったが、議論の結果、全部の初刊を書くということであれば、掲載は問題ない。

→ (藤井委員長)

- ・おそらく、第1刊目を書くと、その次の監修者が次の刊を書くことになると思う。次の人の負担になるかと思うが、書いた方がよいか。

→ (大門委員)

- ・監修者の文章と、部会の責任者が書く文章は自ずとレベルが違ってくる。本が出来上がった時に、この本が編集委員会側としてどういったスタンスでできたのか確認するうえでは、定型であっても監修者の言葉があって、あとがきがあるという形がよいと思う。ご検討お願いしたい。

→ (藤井委員長)

- ・極めて正論だと思う。各巻、基本方針や姿勢を書き、各部会の方向性で作り上げたというような形の言葉を載せるということで了承した。最初は刊全体のことになるかもしれない。

(大門委員)

- ・無償頒布先は多くなるかもしれない。

→ (事務局)

- ・無償頒布先については、事前協議でも藤井委員長にご意見いただき、今後の検討となるが、他県史の聞き取りから、有償分100部でも在庫を抱える状況を聞いており、積み上げた数が350となっている。

→ (藤井委員長)

- ・昨日説明を受けたときに、少なくとも部会の正副部長には全巻を差し上げるべきだと考えている。該当の専門部会の委員についても、全体を差し上げてはどうかと思っている。もう一つ申し上げたのは、日本史関係の研究のある大学にも、ぜひ寄贈していただきたい。配布先については、他

の委員の方の意見を聞いて再検討いただきたい。

(邑田委員)

- ・PDF はインターネット公開を考えているのか。

→ (事務局)

- ・PDF についてはデータで納入してもらうためである。現時点では、インターネットへの公開やPDF での販売ということは検討しておらず、まずは書籍での販売が基本となっている状況である。

(岡本委員)

- ・色校するほどお金が高くなると思うので回数を決めておいた方がよいのではないか。

→ (事務局)

- ・文献については口絵だけがカラーとなるが、文化財等については、別途検討になる。カラーでない部会については、口絵について2校までとやりとりをしている。

(三浦委員)

- ・売価はいくらになるか。

→ (事務局)

- ・他県の状況も確認させてもらい、入札金額を部数で割った金額を想定しているが、あまり高くなると手に取ってもらいにくくなると思っている。予算当局との交渉も踏まえながら検討していく。

(小幡委員)

- ・委員の先生方の所属大学の図書館に県史がないということは切ない部分があるため、最低限そこは入れてほしい。

→ (事務局)

- ・了解した。

(岡本委員)

- ・博物館に行くと、文系関係はこの大学というのが決まっているため、聞いてみるといいと思う。

(松田委員)

- ・口絵のカラー画像は、口絵だけか。

→ (事務局)

- ・これまでの編集委員会で、文献については8 ページとし決めているが、それ以外のところでカラーページを増やしたい場合は、全体ページで調整していただく形になると思う。

→ (藤井委員長)

- ・カラーについては、文献資料と文化財などでは状況が大きく異なる。個別的な提案も含めて事務局とご相談していただければと思う。

(4) 人権的な配慮を要する事項について

(事務局)

- ・人権的な配慮を要する事項等の取り扱いについては、今年度の編集委員会としての方針策定を目指し協議いただきたい。

(主な委員の意見)

- ・人権に関する事項と個人情報に関する事項は区別して考えるべきである。
- ・この案件については、編集委員会としての方針となるため、特に慎重に検討を進めるべき内容である。

(事務局)

- ・本日の協議を踏まえ、適宜、関係する部会と協議や確認を進め、次回の編集委員会で内容を上程したい。

(5) その他

■資料4・5について事務局より説明。

- ・第4回高知県史編さん委員会では、5年目の総括や第2期に向けて説明を行った。第2期を進めることに了解をいただいて編集委員会に臨んだ。
- ・昨年、知事から宿題が出ていた「意見を出やすくする」「説明の時間を短くする」という点については、委員の皆様のご協力をいただき、発表をする部会数を少なくさせていただいたこと、会資料の説明に回ったことなどもあり、専門部会委員以外の編さん委員全員からご感想、ご意見をいただくことができた。ご協力に大変感謝申し上げる。
- ・初めて参加される委員からは、率直に感動しているという話や、和田三郎について、土佐山の方では学習を進めているという話があった。
- ・古谷委員からは、高知県の政策的な課題となっている人口減少についても、高知県の歴史を学ぶことで、郷土の愛着を持って、時間がたっても帰ってきてもらうきっかけにならないかという話、竹崎委員からは、後方について、しっかりしていただいているが、大学生や高校生に対する啓発というご意見をいただいた。宅間委員からは、県史に対する期待感を示していただいた。この事業に対する期待感、好意的な意見をいただいてありがたく思っている。
- ・今後も、進捗管理を報告する時間は少なくし、なるべく、意見交換や事業に対する期待などを発言いただけるような会にしたいと思っている。

→ (羽賀副委員長)

- ・編さん委員会で提出された実績の評価については、評価項目、基準を明確にした上で、各部会のヒアリングを行ってから、行うべきではないか。記号での評価、示し方ではなく、「おおむねこの面では十分活動している」「こういう面では不十分である」というような文章にした方が実績評価としてはふさわしいのではないかと思う。また、各部会のヒアリングのもと、編集委員会で議論したうえで、上部の編さん委員会へ挙げるという手続きを踏むべき。総括は、編集委員会の組織としての役割、権限を踏まえて、組織全体で協議して作られるべきである。

→ (事務局)

- ・今回の総括は、県における他の計画に倣い半年前であるが、総括を行ったもの。第12回に提出された令和6年度の実績を踏まえてさせていただいたもの。ご指摘の件については、至らぬところもあったので対応を検討したい。

→ (藤井委員長)

- ・評価を行うのであれば、実際にヒアリングを行い、それぞれの思いや言い分を聞いたうえで決めた方がいい。事務局においてはくれぐれも注意してほしい。

→ (事務局)

- ・この総括は年度途中のことであったため、第1期が終わった時点で、最終的な総括をする方向で検討していきたい。

■資料6・7について事務局より説明。

- ・広報活動について、12月7日に、四万十市にて、昨年度、考古部会が調査を実施したタキモト城跡について、松田副部長よりご講演をいただく。人材育成については、ご協力いただきながら進めている。
- ・来年度予算については、全巻の刊行を前提に、限られた事業費の範囲内に収まるよう必要冊数を見通したうえで積算したものである。すでに必要な経費として350冊分を財政当局に予算要求をしている。先ほど議論いただいた無償分布と有償頒布の内訳を、なお、詳細に検討していきたい。

→ (藤井委員長)

- ・部数については決まっているということでなので内訳の検討をよろしくお願ひしたい。